

エルトロンボパグ錠 12.5mg 「F」・25mg 「F」
先発品との効能又は効果、用法及び用量の相違

	エルトロンボパグ錠 12.5mg 「F」・25mg 「F」	先発品：レボレード錠 12.5mg・25mg
効能又は効果	慢性特発性血小板減少性紫斑病	○慢性特発性血小板減少性紫斑病 ○再生不良性貧血
用法及び用量	通常、成人及び1歳以上の小児には、エルトロンボパグとして初回投与量12.5mgを1日1回、食事の前後2時間を避けて空腹時に経口投与する。なお、血小板数、症状に応じて適宜増減する。また、1日最大投与量は50mgとする。	<p>〈慢性特発性血小板減少性紫斑病〉</p> <p>通常、成人及び1歳以上の小児には、エルトロンボパグとして初回投与量12.5mgを1日1回、食事の前後2時間を避けて空腹時に経口投与する。なお、血小板数、症状に応じて適宜増減する。また、1日最大投与量は50mgとする。</p> <hr/> <p>〈再生不良性貧血〉</p> <p>抗胸腺細胞免疫グロブリンで未治療の場合</p> <p>抗胸腺細胞免疫グロブリンとの併用において、通常、成人及び12歳以上の小児には、エルトロンボパグとして75mgを1日1回、6歳以上12歳未満の小児には、エルトロンボパグとして37.5mgを1日1回、食事の前後2時間を避けて空腹時に経口投与する。なお、患者の状態に応じて適宜減量する。</p> <p>既存治療で効果不十分な場合</p> <p>通常、成人には、エルトロンボパグとして初回投与量25mgを1日1回、食事の前後2時間を避けて空腹時に経口投与する。なお、患者の状態に応じて適宜増減する。また、1日最大投与量は100mgとする。</p>